

子どもたちの明日

Children, Our Future

2018年3月

123号

目次

- ・自主運営に向けて リアンチュウ村の幼稚園 1頁
- ・「長い間ありがとうございました」
やまゆり保育所より 3頁
- ・「卒園児のいま」 4頁

1

自主運営に向けて リアンチュウ村の幼稚園

カンダール州ルークダエク郡にあるリアンチュウ村は、ベトナム国境にある233世帯、人口1044人の農村で、プノンペンから車で約3時間かかります。村では、農業、特に家畜用の餌となるトウモロコシの栽培が盛んです。

リアンチュウ村は、カンダール州の教育局幼稚園事務所が幼稚園の必要なところを検討した時に候補のひとつとして上がり、当会が調査をして決めた村でした。

2014年12月に開園したリアンチュウ村の幼稚園には、この3年余りで、137名の子どもが登録し、3年間で54名が卒園して、小学校へ入学することができました。

リアンチュウ村小学校の校長先生は、熱心に保護者の要請にこたえ、幼稚園の開設・運営に直接携わってきました。保護者への幼稚園運営への協力のお願いや保育者の働き方や子どもたちへの対応などへのアドバイスも行ってきました。2016年には、お寺の寄付で小学校の周りに塀を作り、子どもたちが牛やバ



卒園児に卒業証書を渡すピン・サリン校長先生

イクの侵入に脅かされることなくのびのびと遊べるようになりました。当初は、NGOが支援しているのにどうして協力を払わなければいけないのかという保護者もありましたが、校長先生の保護者への説明と働きかけでほとんどの親が、自分たちの村の幼稚園を将来自分たちで、運営していかなければならないという事を理解し、協力してきました。

3月21日に村の幼稚園の地域への受け渡し式を予定しているリアンチュウ村の幼稚園の3年間で振り返って、小学校の校長先生ピン・サリンさんと保育者のマウ・チャンディさんにお話を伺いました。

幼稚園を開くための準備・大変だったこと

村の幼稚園を始める時、教室がなかったので、貸付を利用して、教室を建設しようと考えたこともありました。しかし、自分が校長の仕事をしている間に返済しきれるか心配だったので、物置に使っていた部屋を幼稚園のクラスとして

使う事にし、別に簡単な倉庫を作りました。今思えば、貸付を利用しなくて、よかったと思います。

幼稚園を開設したときが、一番大変でした。子どもがいっぱい来て、慣れない子どもが泣いたり話を聞けなかったり、先生が一人でとても大変な様子でした。私もクラスを持っていましたが、休憩時間など、幼稚園の子どもの様子やクラスの状況を見に行き、必要な手伝いをしました。チャンディ先生は少し気持ちが楽になり、辞めなかったのも、自分もほっとしました。だんだんと先生と子どものコミュニケーション、先生と親とのコミュニケーションが良くなり、先生が毎日嬉しそうな顔をしながら、子どもを教える様子を見ると、自分もとても嬉しくなります。

あと、小学校の長期休暇のお正月、学年末休み（9月10月の2か月間）の時に、小学校に通う兄弟と一緒に休んでしまう幼稚園の子が多かった事です。



認定NPO法人

幼い難民を考える会

CARING FOR YOUNG REFUGEES



幼稚園ができて一番良かった事

子どもたちが、小学校で学ぶことへの準備が出来たこと。小学校の先生たちが、一番喜んでます。幼稚園が出来てから、入学する子どもたちのほとんどが幼稚園の卒園児なので、みな礼儀正しく先生の話をよく聞きます。そしてみな賢いので、先生が教えやすい。自分もあまり疲れなくなりました。幼稚園が出来てから3年になりました。幼稚園に通う子どもが増えてるので、親も先生も嬉しいです。CYRに感謝しています。

またCYRが支援している間には、郡の教育局の幼稚園担当者が毎月モニタリングに来ているし、色々アドバイスしてくれています。CYRの支援が終わった後も自分たちで幼稚園を続けてやっていけるかどうかは、保育者がずっと働いてくれるかどうかにかかっています。保育者のお給料をきちんと払えるようにしていく事が一番大事です。この間の運営委員会会議で地区長が、CYRのサポートが終わったら、月に350,000R (\$87.50)の予算を取ってあると言ったので、とっても嬉しくなり安心しました。

リアンチュウ村出身のマウ・チャンディ先生の話

私は、8人兄弟の末っ子で、女の子なので、高校を卒業してから、親から

は、できれば村で仕事して欲しいと言われました。ちょうど地区長が幼稚園のボランティアの先生を募集したので、先生になったら村で仕事しながら、家の仕事も手伝えると思って、申し込みました。

私は、村の幼稚園の仕事を始めた時、教える経験がなく、保育の研修を受けてすぐ子どもに教えることになったので、ドキドキしました。親に文句を言われなかと心配でした。たくさんの子どもが登録したので、大きい子がいれば、小さい子もいました。特に小さい子は泣いたりして、話を聞かないし、疲れてしまい仕事を辞めたくなっていました。校長先生が手伝ってくれ、辞めないようにと言われて、頑張りました。だんだんと子どもが慣れてきて、私の話を聞くようになり、毎日子どもの話を聞いているうちに、子どもがだんだん可愛くなって、わたしも楽しくなりました。

嬉しかったのは子どもたちが小学校でよく勉強できて、小学校の先生にも親にも褒めて頂いたことです。卒園した子どももいつも挨拶してくれるし、自分の前を通る時、頭を下げて、通っていくので、尊敬されていると感じています。

そして郡の教育局の幼稚園担当者は色々アドバイスしてくれ、幼稚園をサポートしていくと約束してくれまし



(左) 卒園する子どもに文字の理解度をテストするチャンディ先生
(右) 2014年、開園時の村の幼稚園の子どもたち

た。今まで3回近隣の地域幼稚園へ見学する機会も作ってもらいました。

毎月CYRのチームがモニタリングで、追加に教え方の説明をしてもらっているので、安心しました。足りないところがあれば、いつも追加で教えてくれるので、教えやすくなりました。

地区長も毎月決まった日に追加の手当を払ってくださいます。運営委員会の皆さんが、一緒に考えてくれ、サポートしてくださるので、先生の仕事もうまくできるようになり、教える力が出てきています。先生の仕事が好きになります。

幼稚園では文字の書き方をまだ教えませんが、親に自分の子どもに文字を教えてくださいといつも言われました。幼稚園が終わる前に、子どもたちにノートに文字一つ書いて、家で親に見せるようにしました。親の幼稚園への理解はだんだん良くなっているように感じています。特に家で子どもが幼稚園で習った歌を歌い、ノートに書いた文字を見せたりするので、親からも私にも子どもが家でやること、家族に話したりすることを楽しそうに報告してくれます。

私は、幼稚園を子どもにとって魅力ある場所、子どもが毎日勉強に来たい場所にしたい、そして子どもが勉強を好きになる気持ちを育てたいです。これからも先生の仕事を、もっと頑張って、多くの村の子どもたちが中学校や高校まで勉強し、安定した収入を得られる仕事を持って、将来も楽しい生活を送れるようになって欲しいと思います。

東日本大震災から7年が経過しました。CYRは、会員や支援者の皆様のご協力を得て、福島県と宮城県での支援活動を実施してきました。2017

年3月に避難解除された飯館村に新たに幼稚園・小学校・中学校の一貫校が再開されます。やまゆり保育所の所長・中井田先生に近況をご報告して頂

きます。尚 CYR の被災地支援活動は2017年度で終了致します。ご協力いただきました皆様に改めてお礼申し上げます。



(左) 雪の山で遊ぶ子どもたち (やまゆり保育所)

(右) 給食の風景 (やまゆり保育所)

『幼い難民を考える会』との出会いは、一本の電話からでした。平成23年初春、それぞれの避難生活の中、保育所もJAの直売所跡施設をお借りして保育を始めて何をどうすれば良いのか手さぐり状態の中、「なんみょうのかいですが」と・・・私は宗教の会？と思いました。その当時は、ご支援の電話が数えきれないほどありました。宗教団体の方からのお電話かな？と再度伺い直しました。本当に今思うと申し訳ない気持ちです。

貴会からは、心のこもった手作りの玩具をお送りいただいたり、本当に必要なものは何かを聞いていただきました。三歳未満の子どもたちを保育している私たちは、目には見えない「放射能」への不安は毎日消えることがありません。ミルクや給食に安全な水を使いたいという思いが強くありましたので、「水」を継続的にご支援していただけたらとお願いしました。本当にありがとうございました。

平成29年3月31日飯館村は避難生活が解除されました。6千人いた村民の内、この1年間で約400の方が帰村され生活をしています。そんな中、今年4月に幼小中の一貫校を目指して学校が再開されます。震災前

に村にあった当保育所と村立幼稚園2園が、一つになり「幼保連携型認定こども園」として新たに再出発することになりました。

避難をして仮施設での保育は「どうなるんだろう?」「これからどうすればいいの?」という気持ちを抱きつつも、毎日遠い所から通ってくる子どもたちのために必死で保育をしてきました。4月の入所児が2名という年もありました。このまま継続できるのだろうか?という思いの中、徐々に入所児が増え、現在は9名の子どもをお預かりしています。やまゆり保育所に預けたいという方が一人でもいる限り行う、という飯館村長の意向があり、ここまで続けることができました。途中で止めることより、工夫したり悩んだりしながらも職員が力を併せて取り組むことが継続の力となったのだと思います。

原発事故がなければ・・・いろいろな場面で壁にぶつかることが、多くありました。飯館村から避難していることを言えずにいるという保護者の方も多く、「何故こんな気持ちで生活しなければならないのか」と理不尽な事ばかりで、保護者と一緒に泣いたり励まし合ったりの7年間でした。

でも、いつまでもこんな気持ちで生

きていくなんて嫌だと思いました。どんな環境の中でも、起こったことを受け止め、どうすれば前向きに生きていけるのかを私たちから子どもたちや保護者に発信していかなければならないと思いました。相手が放射能ですから、私たちにはどうすることもできません。でも、これから様々な出来事に直面した時にどうすれば良いかを、今回の事故を無駄にせずに、学んだことを子どもたちや保護者に伝えて行くことが、今回の出来事を風化させないことへ繋がるのではないかと思います。

原発事故は不幸な出来事でしたが、それから得たことも沢山あります。感謝、そしてその感謝のお返しに私たちは一生懸命生きていくこと。小さなことへも感謝のお返しといって優しくできる人に育つよう保育をしていきたい。そんな気持ちで、4月の新たなスタートに臨んでいきます。飯館村のこども園は、そんな気持ちも育むことができる子ども園として頑張っていきたいと思っています。どうぞ見守ってください。

7年間の皆さまの温かいご支援、本当にありがとうございました。

社会福祉法人いいたて福祉会
やまゆり保育所 所長 中井田多美子

2017年11月から自主運営に移行したプレイタウ保育所と、村の幼稚園として運営されているバンキアン村の幼稚園。長い間、地域の保護者と子どもたちを支えてきた保育所と村の幼稚園からはこれまで大勢の子どもたちが巣立っていました。今号ではバンキアン保育所卒園児ブット・ダネーさん（21歳）の今を聞きました。

——保育所での思い出

私は5歳の時（2003年）にバンキアン保育所に通いました。保育所では友だちが大勢いて楽しい毎日でした。一人っ子だった私にとって保育所の友だちは本当に大切な存在で、卒園から15年経った今でも連絡を取り合います。誰かの婚約、結婚式、仏教行事、お正月など、様々な行事の時に会って話したり、プレゼントを渡したりしています。みんなはいつでもどこで会っても楽しい時間を過ごせる大切な友達です。

私が保育所に通っていた時のことで一番覚えているのは毛糸のバッグを作ったこと。卒園の記念品として小さいサイズの織り機を使って、毛糸のバッグを編むという時間がありました。私は失敗するのがとても心配で作業も遅かったのですが、先生たちがいつも「失敗しても大丈夫」と優しく声をかけてくれて安心して作業ができました。保育所の先生たちはいつも私に自信を与えてくれたので、そ

の後の小学校も安心して通えました。

——卒園後は…

卒園後はバンキアン小学校・中学校と進み、高校入学試験も受けました。けれども、友だちはみんな受かったのに私だけ試験に落ちてしまいました。私が試験を受けた年はレベルが上がり、大変難しかったです。試験に落ちてしまったことはとても恥ずかしかったし、悲しかった。けれど、考えてみたら、私の家族は貧しくて余裕がなかったうえに、私自身あまり勉強は得意ではなかったので、中学卒業後は工場で働くことにしました。そして働きながら、小さい頃から興味を持っていた結婚式のヘアメイクやドレス装飾について勉強しました。

——今では一児のお母さんに

現在はバンキアン村で農業をしている両親と夫と一緒に住んでいます。夫とは両親の紹介で出会って2017年3月に結婚、3ヶ月前には息子も生まれました。夫は英語通訳の仕事をしているので、毎日プノンペンに働きに出ています。

実は来月、家族でプノンペンに引っ越す予定です。夫の妹が経営しているバンケンコン市場のクイッティウ^{*1}の店を譲り受けるためです。私自身は子どもの世話が落ち着いたら工場に戻って働こうと思っていました。しかし、小さい子を抱えての工場勤務は大変だということで夫が反対して、子どもと長く一緒にいられ



（下）保育所の卒園式（2004年）で、カンボジア民族舞踊「ココナツダンス」を披露するダネーさん（写真前列中央、赤い衣装を身に付けている）

る市場でのお店の経営を提案されました。

——将来の夢は、結婚式に関わる仕事！

来月からは市場のお店で働きますが、将来は小さい頃からの夢だった結婚式に関わる仕事をしたいと思っています。結婚披露パーティの装飾、新郎新婦のヘアメイク、ドレスの準備や装飾、そして介添えまで全てを手掛けてみたいです。工場で働いている時に少しだけヘアメイクは勉強しましたが、今後は夢のために市場で働きながら学び続けたいと考えています。

^{*1} クイッティウ：屋台や定食屋、フードコートなどで食べられる、カンボジアの朝ごはんの定番メニュー。細めの米麺ともやし、肉などをライムの風味が効いたスープと一緒に食べます。

CYR 情報

2014年からCYR事務局で働いてまいりました前事務局長鎌田苑子は、3月を持ちまして退職致します。新しい職員片山美紀が2月から広報の仕事を引き継いでいます。

第17回定時総会・報告会のお知らせ

日時 2018年5月26日（土）
第16回定時総会 13:30～（開場13:00～予定）
活動報告会 15:00～16:00
場所 聖心インターナショナルスクール（聖心女子大学内）
東京都渋谷区広尾4丁目3-1
東京メトロ日比谷線「広尾駅」下車 徒歩2分

会費お振込み・活動へのご支援は、下記までお願いいたします。

郵便振替 00110-8-36227
三菱東京UFJ銀行 六本木支店（普通） 1351747
特定非営利活動法人幼い難民を考える会

子どもたちの明日 123号

発行日：2018年3月28日 発行者：牛場 輝夫

特定非営利活動法人幼い難民を考える会

東京事務所（CYR）

〒110-0016 東京都台東区台東1-12-11 青木ビル2A
TEL: 03-6803-2015 FAX: 03-6803-2016
Email: info@cyr.or.jp URL: http://www.cyr.or.jp/

プノンペン事務所（CYK）

#170, St.63, Boeung Keng Kang I, Khan Chamkarmorn,
Phnom Penh, Cambodia
TEL: (+855) 23 210849 FAX: (+855) 23 210849
Email: info@cyk.org.kh
URL: http://www.caringforyoungkhmer.org/

幼い難民を考える会（CYR）は認定NPO法人です。
ご寄付は税制優遇措置の対象となります。